

学校評価委員会の報告

去る1月21日（火）に学校評価委員会を開催しました。初めに学校より、教育調査の結果について報告を行った後、評価委員の皆様より、意見と評価をいただきました。以下、当日出されました意見の主な内容について報告いたします。

- (1) 「いじめ、不登校」について子供たちの1割は、肯定的ではないが、その1割の数字を多いとみるか少ないとみるかどのように考えるとよいかということだが、いじめ・不登校は全くないということはないのではないか。考え方やいじめ・不登校の生じ方によっても違うだろう。
→学校：教員の肯定率が子供より高いが、教員は安心せず、困っている子がいると思わなければならない。毎月1回「いのちの日」を設け全校朝会で話をしている。それを受け、学級でも命を大切にしている。いじめがないように努力していきたい。
- (2) 学年によっては、保護者の意見が多く書かれているが、それだけ関心をもっているということだろう。
- (3) 心配な学年もあるが何が原因と考えるか。ベテランの先生が担任するとよいということか。良いところは褒めて悪いところは叱るということが必要。手のかかる子に先生の手が取られてはまじめにやっている子は困るだろう。しかし、安全のためには指導することもあるだろう。
→学校：いろいろな個性の子供たちが一つの方向にまとまっていければよいが、そうでない場合、対応が必要な子供には別な教員が付き、担任が授業を進めるようにしている。校内委員会で話し合い支援をしている。保護者とも連携していくことが大事だと考える。
- (4) 昔の先生は絶対だったが、今は先生や親に対しても悪い言葉遣いをすることがある。言葉遣いは皆で正していくことが大切だと思う。
- (5) 図書室の利用や読み聞かせについて意見があるが、あらすじの話をするなどもコミュニケーションの一つととらえるとよいのではないかと。
- (6) 一貫教育で、何を期待しているのか。保護者、子供、教員はどう思っているのか。中学校に進んで、急に不登校にならないよう、中学校に慣れておくためもある。幼稚園から小学校、小学校から中学校、中学校から高校へと小さいうちから少しずつのショック（壁）はあってよいと思う。ショックがあってもそのことを親が他に転嫁していると子供はそれを学ぶだろう。子供が中学で少なからずショックを受けてもそれを親が受け止めることは必要だろう。社会人になり思うようにいかないことに会ったとき対応できなくなってしまう。弱い社会人が育つのではないかと。家庭環境や仲間の問題もある、何かあっても学校だけの問題ではない。
- (7) 高四小からは、神明中学校へ進学する子供が多いので、皆、神明中に行きたいと思うのだろう。宮前中、西宮中へは数人の進学なので知っている友達が少ない。それでも何とか慣れていき、そこでつまみかず行くようにし4月を乗り越えていくとよい。自分から友達の中に入っていける子はよいが、内向的な子は、自分でやっていくしかない。
→学校：公立中学校は入学してすぐにフレンドシップスクールを行っている。宿泊行事を通して、新しい友達もできていくようだ。
- (8) そよかぜ本部の対応が一部の子供を対象としているのではないかとあるが、今年のレインボークラブは学童クラブに入っていない子供を対象としているので、そのことだろうか。
- (9) のびのび体操について、教員の肯定率が低く子供や保護者の肯定率と差がある。どのような理由があるのか学校で検討していくとよい。
- (10) 読書感想文を書かせることについて、読解力をつけるためにも書かれている内容の話させ、国語力のアップを日常的につけることになるので書かせることも大事だと考える。
- (11) 学区の割り方についてどうなのか、いろいろ考えはあるが、西宮中に進学する子供が高二小の子供と一緒に交流する機会があってもよいのではないかと。

1 教育委員会による教育調査結果（全体）

■保護者・児童生徒：肯定率（%）

	領域・観点	肯定率（%）			
		保護者	児童		
		全	5年	6年	全
1	学校生活全般	85.2			
2	一貫教育	78.3			
3	学校評価	77.5			
4	学級経営	83.8	84.4	94.0	89.5
5	個に応じた指導		66.7	80.0	73.7
6	学習成果の実感	89.3	80.4	88.0	84.4
7	学習評価	85.2	87.0	91.8	89.5
8	教材教具・ICT	89.0	88.6	100	94.7
9	系統的・連続的指導		80.4	92.2	86.6
10	道徳教育	86.1	88.9	86.3	87.5
11	体育・健康教育	92.3	89.1	88.0	88.5
12	特別支援教育	76.7			
13	地域と共にある学校	88.1	93.3	98.0	95.7
	計	84.9	84.3	90.9	87.8

2 学校による独自の評価 学校経営・その他の項目

	評価の観点	肯定率（%）		
		教員	保護者	児童
1	教育方針	88.2	84.2	80.2
2	環境の整備	82.4	85.8	79.4
3	組織運営	64.7	85.3	
4	教員の意欲	94.1	89.0	
5	施設・設備の安全管理	100	91.1	
6	授業の工夫	93.8	87.5	
7	学習評価	81.3	81.3	91.3
8	道徳指導	93.8	80.7	86.7
9	総合的な学習の時間	92.3	74.4	87.8
10	行事参加			91.5
11	あいさつ・きまり	76.5	84.0	93.8
12	いじめ・不登校指導	88.2	70.9	77.2
13	生き方指導	80.0	66.9	80.0
14	健康・安全指導	100	88.8	90.3
15	人間関係づくり	94.1	84.3	
16	学校取り組み発信	87.5	89.9	
17	言語活動・図書指導	88.2	85.9	70.3
18	メール配信		96.5	
19	食育指導	68.8	93.7	71.0
20	のびのび体操	35.3	96.2	71.9

3 お寄せいただいたご意見の中から

通常の学級・ことばの教室・たかし教室より

（一部）

○児童数が増えている中で、設備の改善をお願いします。校舎も古く、安全性が心配です。

（学校より）毎年児童数が増え、普通教室を増やしています。教室の冷暖房や PC 環境等、児童が学習する環境は整えています。校舎は古いですが、定期的な点検等は安全基準に照らし行っております。今年度は、体育館の屋根の雨漏り修理、屋上の防水工事が入りました。毎月教員による安全点検も行っております。今後も安全な学校生活を送ることができるよう努めてまいります。

○休み時間の校庭利用について、近くに大きな公園はほとんどなく、放課後ゲーム等室内で遊ぶ友達が多い環境です。校庭利用の交代制の見直しや工夫をお願いします。

（学校より）休み時間の校庭利用について、児童数が増え、安全面から利用の工夫を検討してきました。交代制も今年度 2 学期から行ったもので、遊びの様子を見て来年度に向け改善の検討をしています。上級生から下級生まで校庭を利用すると遊びやルールを工夫しないと大きなけがにつながります。区内でも衝突によるけがが発生しています。教員による見守りだけでなく、安全な利用の仕方を検討していきます。

○障害理解を深める情報提供をしてほしい。身体的な対応方法など知りたいです。

（学校より）特別支援教育については、どのような困り感があるのか保護者の皆様からの御意見を伺うようにしておりますので担任、養護教諭、特別支援コーディネーター等校内の教員に相談ください。特別支援教室、ことばの教室に通室している児童、保護者については、担当の巡回指導教員、ことばの教室担任から情報提供があるかと思いますが、通室していない保護者の皆様にも届く情報提供をこころがけていきたいと思っております。